

# 令和3年度 コミュニティ・スクール研修会 実施報告

《日 時》 令和3年12月1日(水)～12月10日(金)

《方 法》 Google Workspace for Education によるオンデマンド研修

《参加者》 ○学校運営協議会の設置を検討・予定している各市町村立学校(組合立含む)の管理職、地域連携担当教職員  
○各市町村教育委員会のコミュニティ・スクール担当者

計 93 名

## 《内 容》

◆ 挨拶 人権・地域教育課長 大橋 淳

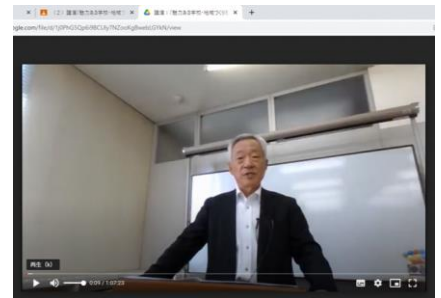
◆ 講演「魅力ある学校・地域づくりを目指して～『学校運営協議会制度』の導入と準備～」

滋賀県「学校を核とした地域力強化プラン」推進協議会

座長 宮治 一幸(元 滋賀県湖南市立岩根小学校長)

### 【講演の概要】

湖南市立岩根小学校と同市立石部中学校における学校長としての経験を基に、具体的な実践と展開を通して、コミュニティ・スクール導入に向けた体制整備の方策や導入後の参考として「一年一熟議」「事務局体制の構築」等、学校運営協議会を機能させるための工夫について講演いただいた。



- ・「地域の方の学校教育への干渉(批判・注文)によって、現場の負担が増えるのでは?」という不安の声を聞かすが、その不安こそ、今、学校が地域の中におかれている状況を物語っていると考える。「地域・家庭が学校を批判し、学校が地域・家庭を批判する関係で教育を進めるサイクル」を「学校と地域・家庭が、足りない部分をお互いに補い合う支援のサイクル」に転換していくことこそ、私がコミュニティ・スクールの実践で学んだ考え方である。コミュニティ・スクールはツール(手段)である。コミュニティ・スクールを活用して、どのように学校と地域との関係をつくっていくのが大切になってくる。
- ・コミュニティ・スクールの設置において、委員の人選や人材確保も大きな不安の一つだと思う。極端なことを言えば、人材を探す活動がコミュニティ・スクールの活用そのものだと思う。なぜなら、目指す学校と地域との関係を互いに構築していく第1歩が地域の方との出会いや話し合いを通じた人材発掘だからだ。地域の方々と関わることを喜びとするならば、人材確保は結果としてついてくるものだと思う。人材発掘は、人のつながりを活用して、自分が1人でも多くの地域の方を知るという「心がけ」から始まると思っている。
- ・「学校運営協議会を設置することで会議が多くなり、学校の負担が増えるのでは?」と思われる方もいると思う。これは工夫次第だと考える。私は、事務局長をPTA役員OBの方に、事務局員を地域学校協働活動推進員にお願いして「学校運営協議会の事務局」を設置し、会議に向けた準備をお任せした。
- ・「学校と地域との関係は今の状態で十分。さらに学校運営協議会を設置する必要があるのか?」という声もある。学校運営協議会を設置するからといって、新たな行事や新たな発想を持ち込む必要はない。現在の学校と地域との取組をコミュニティ・スクールの組織にきっちりと位置づけ、「今後の取組を意義あるものにしていくために設置する」という考え方で良いと思う。
- ・コミュニティ・スクールは制度である。どのような制度でも実施したからといって、確実なメリットがあるわけではない。制度をどう活用していくかによって、何年後かに効果があらわれるものだと思う。

◆ 説明「これからの学校と地域-コミュニティ・スクールと地域学校協働活動-」 人権・地域教育課 指導主事

## 《参加者の感想》

- ・CSの導入に向けた具体的な準備について、この制度の位置づけや学校現場における現状からの方向性が明確になった。
- ・これまでCSについて、様々な要因から負担に考えていたが、発想の転換をすることができた。
- ・何のためにCSをスタートさせるのかを、教職員や保護者、地域の方に明確に示すことが大切であると感じた。
- ・CSの委員を人選するためにも、地域に足を運ぶことの重要性がよくわかった。
- ・地域と学校を繋ぐうえで、教育委員会事務局の役割も重要で、目的に向かって活動するという軸がぶれないよう軌道修正する役割が求められていると感じた。

今後の「コミュニティ・スクール」の導入・検討に活用できるものであった

